

DEBUT 首長

静岡県焼津市長 中野 弘道氏

オール焼津で水産観光盛り上げ 震災時、あくまで死者ゼロ目標

焼津市 静岡中部に位置し人口約14万5000人。古事記にも名前が登場し、明治以降、漁業が発展。カツオの水揚げ日本一。

——街の活性化にどのような方針で取り組むか。

焼津は全国に知られる魚の街。水産業をどう盛り上げるかが重要だ。従来のように漁獲、加工、流通、消費がそれぞればらばらでは伸びていきにくい。オール焼津で一丸となる体制を作る必要がある。

具体的には水産業や農業、商工業など業界ごとの懇談会を定期的に持ち、何が足りないかを（2013年度中に）精査する。14年度予算にはそこから生まれた具体案を盛り込む。3年先には焼津全体の10年後のあり方を含めた計画を作る。

——焼津の将来の姿をどう描いているのか。

産業や観光を面として振興していきたい。焼津は街の広さがコンパクトで、山も海も川もあり、産業もたくさんある。さかなセンターは現在年間160万人の来場者数を200万人に伸

ばす目標だし、駅前周辺などの再開発を進める。

どうPRして話題を作っていくかが今後の課題だろう。予算がないとか言い訳をせず、面白い事は何でも皆でやることが大事だ。焼津は水が良く、お酒もお米もおいしい。カツオなどもびっくりするほどうまい。こういう良さをもっと全国にPRしていく。

——津波避難タワーの建設計画を前市長時代より絞ったが。

焼津市民の8割は海拔10m以下の場所に住んでいる。どうやって焼津を守るかを単発ではなく総合的に考えるべきだ。大切なのは各市民の避難場所をどこにするかだ。ただ次々とタワーを建てていたらいくらあっても足りなくなる。また水門や防潮堤など外側で減災する対策や、長期の生活場所の確保なども重要だ。市民目線で全体として効率的な「防災・減災計画」を13年中にまとめる。

——浜岡原子力発電所（御前崎市）の避難区域が周辺31km圏に拡大された。焼津



なかの・ひろみち 1957年静岡県焼津市生まれ。80年明治大学商学部卒業、会社員を経て92年から洋品店経営。2003年焼津市議会議員、09年静岡県議会議員、12年11月の焼津市長選に自民党推薦で出馬し、現職を破り初当選。56歳

市は市全体を対象としたので、災害時には市役所移転も求められる。

まず全市民がどこへどう逃げるかを、今夏以降できる原子力防災計画の中に明記する。市役所をどうするかはその後の話だ。移転のため他の市町との連携は必要なので、各地のより多くの市町と協定を結んでいきたい。

行政としては震災時に死者を一人も出さないことが目標だ。最近、南海トラフなどで静岡県の死者何人といった被害想定が発表されているが、危ない場所だという印象を与えてしまう。あくまで目標は死者ゼロだ。

——（米水爆実験で被爆した第五福竜丸の母港として10年から始めた）焼津平和賞の表彰を13年度は中止すると発表した。

平和賞自体はよいことだ。今後の位置づけを選定委員を含めて議論し考え直す年にしたい。（聞き手は

静岡支局長 金沢 浩明）